

令和2年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

(1) 都立光明学園 学校運営連絡協議会

(2) 事務局の構成

主幹教諭（教務主任）＝事務局長、経営企画課長、主幹教諭（肢体不自由教育部門小学部担当・肢体不自由教育部門中学部担当・肢体不自由教育部門高等部担当・病弱教育部門本校担当・病弱教育部門分教室担当）、経営企画室課長代理 計8名

(3) 内部委員の構成

校長、副校長3名、経営企画課長、主幹教諭（教務主任）＝事務局長、主幹教諭（肢体不自由教育部門小学部担当・肢体不自由教育部門中学部担当・肢体不自由教育部門高等部担当・病弱教育部門本校担当・病弱教育部門分教室担当）、経営企画室課長代理 計12名

(4) 協議委員の構成

学識経験者（2名）、特定非営利活動法人理事長、特例子会社取締役社長、地域交流中学校長、地域交流小学校長、肢体不自由教育部門PTA会長、病弱教育部門PTA会長、肢体不自由教育部門PTA副会長 計9名

2 令和元年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者数、内容

（コロナウイルス感染症拡大防止対策に伴い、第1・2回は資料発送、個別意見集約による書面開催）

第1回 令和2年7月28日（火）～8月末日、協議委員9名

協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出、学校経営計画説明、本校の教育活動について説明、意見交換

第2回 令和2年10月9日（金）～11月6日（金）、協議委員9名

これまでの教育活動に関する報告、学校評価実施計画説明、協議委員からの教育活動に対する意見

第3回 令和3年2月24日（水） 内部委員12名、協議委員8名（1名欠）オンライン併用実施

これまでの教育活動に関する報告、学校評価の内容報告
学校評価を受けての、次年度に向けての提言

(2) 評価委員会の開催日時、出席者数、内容

第1回 令和2年7月28日（火） 評価委員5名（書面開催）

学校評価の基本方針の確認、学校評価の評価項目・アンケート用紙についての検討、今年度の学校評価の実施に向けた検討

第2回 令和3年2月24日（水） 内部委員4名、評価委員4名 欠席1名 オンライン併用実施

アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理、評価を受けての、次年度に向けた提言まとめ

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

（1）学校評価の観点

「学校の魅力の創出」「指導の充実」「安全な学校生活」「児童・生徒の健康」「業務改善」の観点で実施する。

（2）アンケート調査の実施時期・対象・規模

・12月	協議委員	対象： 9人	回収： 8人	回収率： 89%
・12月	全校保護者	対象： 223人	回収： 116人	回収率： 52%
・12月	教職員	対象： 200人	回収： 200人	回収率： 100%
・12月	全校児童・生徒	対象： 223人	回収： 109人	回収率： 49%

（3）主な評価項目

令和2年度学校経営計画及び前記5観点に対応する形で、前年度学校評価項目を整理・精選し、評価項目を設定し実施した。各項目に対応した記述欄及び自由意見欄を設定した。特に「ライフ・ワークバランスの推進」に関する設問項目「働き方への意識改革や業務合理化・効率化と分担改善等により、時間外勤務の縮減や職場の環境改善への取り組みが推進されていますか」を設定した。

（4）評価結果の概要

- ・ほとんどの項目において、評価平均が昨年度を上回った。
- ・観点1「学校の魅力の創出」については、アートプロジェクトによる学園の一体感の醸成などの成果から、特に良い評価が得られた。
- ・観点2「指導の充実」については、ICT活用、オリンピック・パラリンピック教育において昨年より評価が下がったが、全体的には昨年を上回る評価が得られた。地域支援や進路指導については、将来の社会参加に向けた切れ目のない支援を実現する取組づくりが課題として示された。
- ・観点3「安全な学校生活」については、特に通学安全や生活安全が高い評価を受けた。
- ・観点4「児童・生徒の健康」については、新型コロナウイルス感染症予防対応に関連した情報発信、具体的感染症対策が保護者の安心に結びついた点で、特に高い評価を得た。
- ・観点5「業務改善」については、業務の効率化や組織的運営の項目において、依然、教職員の低い評価が目立つ。

（5）評価結果の分析・考察

- ・「コロナを言い訳にしない」「学びを止めない光明学園」を経営の柱として、教職員が協力して創意工夫を重ねながら教育活動を進めた。分教室の学園生も参加した表現活動「光明アートプロジェクト」への関心・意欲・態度の育成や学園生間の絆を深めたこと、校外学習の代替としてプロのオペラ歌手団を招き、校内会場で「オペレッタ特別鑑賞会」を実施したこと等の前向きな取り組み姿勢が高い評価につながったと考える。また、その過程で学園の一体感が一層を醸成されたことも、大きな成果として評価されたと考える。
- ・春の臨時休業時からの授業回復状況を逐次報告し、年度末の「授業実施率90%超」となる確約をすることができた実績が高評価につながったと考える。在宅訪問学級については標準指導時数（週3回・1回、当たり2単位時間）という都の基準について十分な理解が得られていないと考えられる。
- ・PT・OT・摂食指導等の自立活動に関する指導、学習指導アドバイザーによる認知の指導等、外部専門員を招聘しての指導が定着してきたことが評価につながったと考える。
- ・オリ・パラ教育とICT活用の2項目についての評価が下がったことは、関連学習が中止になったことや、保護者や外部の方に来校していただく機会が減ったことで学習状況や内容が伝わりづらかった面もあると考える。

- ・オンライン授業は今までも実施していたが、コロナ禍における積極的活用においては、指導の確保にとどまらず、対面ではない間接的な指導のメリットも改めて認識されたと思われる。
- ・安全な学校生活についての評価の向上は、過去の事例の共有による危険予測・回避の姿勢定着の成果と考える。病弱教育部門の一人通学については、個別の実態に応じた指導ステップが必要との意見も見られる。
- ・新型コロナウイルス感染症予防対応に関連した情報を、保護者向け保健通信「健康の橋」や「災害時緊急連絡システム（フェアキャスト）」を使って、迅速かつ丁寧に保護者への情報発信をしたことが、安心感の醸成や理解や協力を生み、高い評価につながった。
- ・保護者の校内立ち入り原則禁止等に協力いただき、直接、学校の中の様子を見られない状況下で、校内の様子を周知することへの一層の期待があるものと理解される。
- ・学校が、保護者の不安の声に積極的に耳を傾け、きめ細かく、また臨機応変に具体的対策を推進したことにより保護者の安心感、理解と協力を得ることができた。この点が高く評価されたと考える。
- ・形態食は、食べる機能や安全性を考慮して、素材別に調理しながら、普通食に準じた味付けや風味付けを心掛けている点が、十分保護者に伝えられていないと考える。
- ・教職員の超過勤務は、3割程度の者が月45時間の超過勤務となっており、自身の超過状況周知によって早く退勤しても業務量削減や割振り改善が伴わなければ、かえって辛くなるとの意見も多く見られる。一方で、分担している業務の絶対量と退勤時刻が相関しているとも限らないことから、効率的な時間の使い方や業務を短時間で終わらせるコツなどの共有も必要と考えられる。
- ・業務ラインの指示に従って動くことだけでは、主体的な連携が不十分であるとの指摘が行政系職員からあった。指示待ちに留まらない主体性ある業務遂行と連携推進の意識化を進める。
- ・主幹教諭・主任教諭に対して、年度始めに業務ミッションを一覧として示したことで、業務ラインの業務進行管理が明確になり、業務改善につながったとの肯定的評価が多くみられた。
- ・環境整備については、新しい整理棚の導入など、できることに順次着手し、改善が進んでいる点が評価につながった。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・教員の、学びに対する前向きさが感じられた。
- ・アンケート結果にも、教職員の一丸となった対応に評価が集まっており、客観的にも自信をもって良い。
- ・オンライン授業やオペレッタや光書展など専門家の指導の下に展開する学校行事の工夫、保護者の学習会など家庭の教育力を高める企画など、内容・方法が多角的に展開されていて他に例を見ない優れた実践である。とりわけ、アートギャラリー、壁画、横断幕などによる発信は、学園生のみならず地域や保護者にも心豊かな成果として届いている。
- ・学びの工夫をさらに進める教員の柔軟な発想と前向きな姿勢が見られ、それが学園生に伝わった。
- ・光明祭やプレゼンカップ、ビデオ制作、検定への挑戦など、児童・生徒が、自主的・創造的に参加できる環境の整備に力を入れ、児童・生徒に大きな刺激を与えている。
- ・ブックレットの光美展作品集は素晴らしい。学園生の宝物になる。
- ・本物のオペラ歌手を学校に呼ぼうという発想がすごい。生徒は感動し、グローバルな興味を広げられた。コロナ禍の困難を逆手にとる新しい発想と言える。
- ・どこよりも早くオンラインに活路を見出したことは、まさに“光明”の真骨頂であった。子供の笑顔が見られ、グループでのオンライン配信で仲間意識も保たれた。プリントや教材が毎週金曜に自宅に届けられたり、年度途中の11月下旬段階で授業保障が86%まで回復できたりしたことは、とても良かった。
- ・病弱教育部門においては、寄宿舎の対応が早期の学校再開に重要な役割を果たした。
- ・コロナ禍の大変な状況の中でも、しっかりと研究の取組ができていた。

- ・医療的ケア体制、摂食のアレルギー対応も、とても丁寧で慎重で、安全が保たれている。
- ・病弱教育部門の一人通学の取組は、家庭との連携の下、着実に遂行している。
- ・具体的な対応策が、保護者向け通信「健康の橋」に見える形で示されて、不安の低減につながった。まず情報発信に注力したことで、不安を取り除き、保護者に安心感を与えたことは最良であった。
- ・校長を中心とする学校と、会長を中心とするPTAが、それぞれのチーム力を発揮しながら協力し合える関係をもてた。保護者からの様々な声についてPTAを通じて受け止め、それに応える中で不安が一つずつ解消され、学校に送り出せるようになったことが、保護者の安心と感謝に繋がった。
- ・環境整備においては、収納棚も増設され、整理整頓が期待される。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・アートギャラリーや歴史資料展示の取組が、地域の理解推進につながり、また光明学園自体、特別支援教育のヘリテイジ（歴史の伝承者）になるような発展が期待される。
- ・保護者の数少ない本音に向き合う姿勢を一層大切にし、授業づくりに生かしていくことを期待する。
- ・アートプロジェクトなど今年度の創造的な取組を、今後の学校運営に生かしていくことを期待する。
- ・ICTの活用について評価が下がったのは、期待の大きさの裏返しとも受け取れる。オンライン授業の成果を分析し、今後の授業においても有効に活用できるよう、研究及び教職員のスキル向上に努め、次年度予定されるPC生徒一人一台の環境を生かしていくことを期待する。
- ・共同作業や経験が乏しい本校の児童・生徒にとって、VTRやVRを使った疑似体験等も含め、学校生活の中での、経験や体験を十分確保していくことが期待される。
- ・子どもたちのニーズに即した授業の展開、年齢に即応した課題設定や日常生活の指導が必要であり、さらに検討が必要である。
- ・学校を卒業後に人生を楽しめるよう、切れ目のない学びへの移行支援を期待する。
- ・指導に際し、些末な事柄に宿る大事な課題を見逃さず、場に応じて問いかけて思考力を高め、児童・生徒の自他の尊厳の認識を通して「メタ認知」力が獲得できるよう、教員の指導力向上が期待される。
- ・コロナ禍で学校再開後、分断が生じないよう、更なる情報共有が期待される。子どもの心情の理解についても忘れないようにしたい。
- ・学級担任の役割を明確にし、生活年齢や学年、学級の経営を法令に則って運営されることを期待する。
- ・連絡事項が組織の中でうまく伝わらないことがある。
- ・教職員の日々の努力に感謝しつつ、超過勤務の状況が懸念される。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

- ・参観期間実施や、HP、SNS、「光明の学び」、また緊急時の緊急連絡システム「フェアキャスト」活用による発信のノウハウをもとに、更に情報発信を充実させていく。本校就学・入学希望者を対象としたオンライン学校見学についても検討していく。
- ・新校舎落成による校舎一体化を期に、併置校の特色を最大限に生かした両部門の交流の一層の充実を図る。
- ・アートギャラリーの作品展示を定期的に入れ替えながら、継続する。
- ・多様な考えや様々な御事情があることについて、把握と理解を大切に、学園生個々の心情に寄り添う姿勢を継続する。
- ・学園生の多様な学びの様子や内容、課題や成果が、より明確に伝わるよう、学部、教育課程ごとに連絡帳、通知表、個別指導計画などの様式や伝え方を一層工夫していく。
- ・本年度のオンライン授業のノウハウなどを生かし、今後、児童・生徒1人1台が配備されるPC環境を生かして、各授業の中でICT機器を効果的に活用できるようにする。
- ・オリンピック・パラリンピック教育で得た学習の成果をレガシーとして国際理解に生かしていく。
- ・自立活動専任教員や外部専門員と教職員の連携を一層図りながら授業充実を追求する。また、新任教員

の育成に対しても、指導経験豊かな教員を指導・相談役に一層活用する。

- ・教職員が人権感覚を高くもち、学園生への指導や小さな変化を見落とすことがないようにし、情報共有し、安心・安全な指導の確保を図ると共に、学園生の人権感覚の育成につなげていく。
- ・摂食指導については、外部専門家の助言を受けながら、給食指導のねらいや考え方、食形態の決め方等の保護者への説明を丁寧に行い、保護者とねらいを共有する中で実施する。特に経口摂食開始の手順については、学校で定めたルールに則って、やりとりを重ねながら進めていく。
- ・教職員対象の摂食指導研修会も継続して実施し、指導技術の向上とスムーズな引継ぎに努める。形態食については、味付けなどにも一層工夫していく。
- ・新型コロナウイルス感染症対応については、今後も感染状況をみながら、安全・安心に学校生活を送れるよう、感染予防対策を徹底させると共に、国や都の動き、学校の取組などの情報発信に努めていく。また、平常時に戻った時の対応も確実に行えるよう、計画的に検討を進める。
- ・学校非常勤看護師の医ケア専用車両乗車を（学校での医ケア体制確保を優先した上で）可能な範囲で実施し、保護者の負担軽減を図れるよう努める。
- ・学園生の指導充実に不可欠な要素である教職員の心身の健康を、超過勤務時間のメール周知による教職員自身の自己管理や自己申告面談等を活用した意識改革とともに、管理職が率先して学校全体の働き方を把握しワークシェアを推進する。そのためにも業務ラインごとの主幹・主任・教諭間の相談充実を図り、積極的な業務改善提案が行われるようにして、業務の偏りの改善への取組を継続していく。
- ・産業医面談は、相談希望者が実施予定を確認して、主幹教諭、副校長に相談できるようにする。
- ・校内の整頓については、月に1・2回「クリーンデスクデー」を設け、引き続き意識向上に取り組む。
- ・次年度の新校舎完成時には、安全な校舎移転に向けて準備を進め、併せてスペースの有効活用により収納効率の向上を図るとともに、「ワークバランス」の視点からも都のモデルとなる働きやすい執務室環境の構築を目指す。
- ・待遇については外部講師による研修や校内OJTの推進により、学校関係者の意識向上に努める。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 9人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少 そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう 思わない	分からない	無回答
8	0	0	0	0	0	1

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議1回 ※3名参加予定のところ、2名は直接提言を頂いた。別の1名は感染予防のために、提言文書を受け取り、校長が代読した。

【成果】 評価委員及び校長から教職員へ、学校の今年度の成果と課題及び改善策についていただいた提言を資料解説も加えて報告することで、校内の共通理解を図り、教職員の学校経営計画実現に向けた取組についての意識改善につながった。